

水稻箱処理剤播種同時施用(いもち病・害虫剤)

JA育苗センターにおいて、播種同時に薬剤処理をした苗の希望注文をコシヒカリ・みえのゆめ・キヌヒカリについて実施しました。注文がまだの方はお近くの営農経済センター・グリーンショップへお問い合わせください。苗については箱処理剤を播種同時施用することによって、移植前の箱への農薬散布の手間が省けます。

令和4年産播種同時施用実施品種

ツインターボ箱粒剤〈適用病害虫〉

もみ枯細菌病・いもち病・白葉枯れ病・ごま葉枯れ病・イネドロオイムシ・イネミズゾウムシ・ウンカ類
 ※メイチュウやカメムシについては、別途防除が必要となります！
 ※個人で育苗に取り組まれる方についても必ず箱施用剤を使用して頂きます様よろしくお願ひします。

水稻ばか苗病対策

水稻採種圃場周辺の方又はばか苗病に困っている方は以下の微生物資材（農薬ではない）エコホープDJを是非使用下さい。

エコホープDJ

【推奨使用方法】

・温湯消毒冷却後に1回使用（200倍液で24時間浸漬処理）
 ・催芽前の使用を推奨します。
 ・処理時の浴比：容量比1：1以上（種籾4kgに薬液8ℓ）

【混用・体系処理不可剤】

ベンレート水和剤・ダコレート水和剤等
 ※ベンレート水和剤・ダコレート水和剤は緑化期の使用は可。

【使用上の注意点】

・薬液温度：10℃以下、30℃以上は避けて下さい。
 ・反復使用しないで下さい。
 ・薬剤は放置せず、24時間以内に使用して下さい。
 ・処理籾は保存しないで下さい（速やかに浸漬処理）。
 ・発芽率の低下した種籾（古い・保存状態の悪い種籾等）は発芽不良や生育障害を起こしやすいので使用は避けて下さい。

◆令和3年産米概算金追加支払いについて

米の需給動向については新型コロナウイルス感染症の影響が長引き、外食等の消費低迷が続いており、大幅に米価が下落しています。こうした中、農業者支援の一環として販売状況を見通し、JA流通経費を圧縮することで下記のとおり追加概算金を支払いさせていただきます。

追加概算金単価 1俵あたり 200円(税込)

【対象米穀】

2022年1月31日(月)までにJAに出荷され、農産物検査を受けた水田活用米穀及び買取米穀を除く水稻うるち玄米
 ※水稻もち玄米及び醸造用玄米は対象外

【支払い予定日】

2022年2月28日(月)

令和3年産米土壌診断及び食味診断のJAいがふるさと管内平均

土壌診断及び食味診断をご利用頂いた皆様の平均値は下記のとおりです。

令和4年産米につきましても、引き続き土壌診断及び食味診断に取り組み、高品質で高収量な伊賀米産地づくりを目指しましょう。

【土壌診断】

項目	目標値	JA平均	判定	コメント
pH	6.0~6.5	6.2	適正	基準値より高いと「アルカリ性」低いと「酸性」です。
りん酸	15~20	22.0	高い	りん酸の過剰が多く見られる為、りん酸成分の低い元肥施用を検討ください。
石灰	130~168	240.2	高い	過剰に施肥すると他の養分吸収を妨げてしまいます。毎年砂状ケイカルを散布している圃場については高い傾向にある為、土壌改良材の見直しを検討ください。
苦土	16~27	26.1	適正	りん酸の吸収やりん酸の植物体内での移動を助けます。全体的にりん酸が多い為、苦土の補給を多くし、りん酸を吸収させる事でりん酸の低下に繋がります。
加里	19~31	19.8	適正	根から吸われた養分等を作物の体内に運びます。根の発育などにも効果があります。けい酸加里などで補給できます。
CEC	—	16.0	—	土壌の保肥力のことで、人間でいう胃袋の大きさです。
塩基飽和度	45~60	77.8	高い	人間でいう満腹度。高いと土に吸着されない塩基が多くなり、濃度障害が出やすくなります。
珪酸	15~48	12.2	低い	稲を丈夫にする働きがあります。全体的に低い為、けい酸加里などで補ってください。
腐植	2.5以下	2.2	低い	土壌の肥沃度で土壌の特性を示す上で重要な指標です。堆肥などで補いましょう。

【食味診断】

項目	平均値	目標値	判定	コメント
水分	14.5	14%~15%	適正	過乾燥だと精米に割れが生じ、水分過多だと炊き上がりが水分を含み過ぎることとなります。どちらも食味を損ねる要因となります。
タンパク	7.4	7%以下	高い	施肥過剰により窒素が多い場合や穂肥施肥のタイミングが遅くなると、高タンパクとなり食味が低下します。
アミロース	18.2	18%以下	高い	低ければ低いほど、もちもちとした食感になります。
脂肪酸度	19.3	16%以下	高い	脂肪酸度が増加すると古米臭発生の要因となります。
スコア	76.6	80以上	低い	タンパク質含有量やその他要因などを勘案し、食味システム独自換算した数値です。
整粒	71.3	75以上	—	今年産米については全体的に整粒歩合が良い結果でした。
未熟粒	20.2	10%以下	高い	未熟粒の中でも1番多かったのは「基部未熟粒」であり、その次には「青未熟粒」でした。
被害粒	8.0	5%以下	高い	被害粒のほとんどは「胴割粒」でした。胴割粒が多いと炊飯時に水分が過剰に入り、食味を損ねます。
着色粒	0.2	0%以下	高い	部分着色粒(カメムシ斑点米)がほとんどでした。カメムシは防除が基本であり、ラジヘリを用いた一斉防除など地区一丸となって取り組むと更に効果的です。